



Title	「東日本大震災におけるHuMAの活動」：宮城県南三陸町からの報告
Author(s)	杉本, 勝彦
Citation	目で見えるWHO. 2011, 46, p. 14-16
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86779
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



「東日本大震災におけるHuMAの活動」

～宮城県南三陸町からの報告～

HuMA 杉 本 勝 彦

HuMA とは Humanitarian Medical Assistance (災害人道医療支援会) という NPO です。国内外での大きな災害時に医療チームを派遣し、災害医療にかかわる人々の教育研修を行います。医師・看護師・臨床検査技師・薬剤師・放射線技師などの術者や、国内外の災害地で医療チームを支援する人 (調整員)、事務局員で構成しています。

HuMA はつぎの理念のもとに活動します。

- (1) 目的は大きな災害に遭遇して苦しむ人々の救援であり、その自立を支援する
- (2) 国内外の自然災害・人為災害を問わず、あらゆる種類の災害を対象
- (3) 災害時の緊急医療支援から復興支援・地域開発をも視野に
- (4) 人々の差別をしない
- (5) WHO などの国際機関や各国政府、他の非政府組織とできるかぎり協力、連携する
- (6) 災害医学・医療に関する研究開発につとめ、医療人や一般市民の災害対応と準備の教育・研修事業を行う



Katsuhiko SUGIMOTO

1954年4月生

1980年 北里大学医学部医学科卒業

1987年 北里大学医学部講師

救命救急医学

1997年 昭和大学医学部助教授

救急医学

聖隷三方原病院救命救急セン

ター長

2005年より国土舘大学大学院救急システムコースに教授として勤務

の活動が行われる為、DMAT 活動後に残された被災者の方々の医療活動を目的としたものです。

#2 については、現地で被災者でありながら発災直後から働かされている医療関係者の方々が少しでも休めるような方法を模索するものでした。

#3 について日本は JDR (Japan Disaster Relief) が Governmental Organization (GO) として海外での活動を行ってきています。今回の大きな災害では海外からの医療支援の申し出が正式にあるだろうと予測し、その海外のチームが滞りなく国内の被災地で活動できるように日本の counter part あるいは現地対策本部との窓口役を務め、可能であればその外国のチームと協同して活動しようというものです。

急性期の DMAT が撤収をした 3 月 18 日に、医療需要の確認と活動拠点の決定の為に HuMA としての初動・先遣隊 (医師 1 名、看護師 1 名、調整員 2 名) が陸路宮城県に入りました。宮城県本吉郡南三陸町では、約 18,000 人の人口が今回の災害で半数以上の人命が失われ、被害に遭われた方々はこの地域の拠点となる南三陸町総合体育館「ベイサイドアリーナ」(当初 1,500 人程度) や歌津地区や志津川地区などの 41 か所の公的施設など (学校や公民館あるいは個人宅) に避難している状態でした。南三陸町には、公立志津川病院 (常勤医は 6 名) と 6 つの開業医診療所がありましたが、

●活動決定から初動まで

2011 年 3 月 11 日に起きた東北地方太平洋沖地震による甚大な被害をうけた東日本大震災の被災者救援の為に HuMA は被災地での医療支援活動を行う事を同日に決定しました。この医療活動の目的は、次の三点に決めました。

- #1 : 急性期から慢性期にかけての被災地での医療
- #2 : 現地医療関係者の援助
- #3 : 外国からの医療救援チームとの collaboration とリエゾン (精神医療) 役を行う

#1 については、超急性期から急性期にかけての救急医療の時期では DMAT (Disaster Medical Assistant Team : 災害急性期に活動できる機動性を持った、トレーニングを受けた医療チーム)

津波により全ての医療機関が機能、もしくは建物自体を失っています。3月19日の時点では種々の援助団体（医療関係で20団体）や、志津川病院の元職員が集まり、「ベイサイドアリーナ」に、医療統括本部が設置され、近接した場所には自衛隊が展開していました。

HuMAは「介護老人保健施設歌津つつじ苑」に医療拠点を置くと同時に、志津川「ベイサイドアリーナ」に置かれている医療統括本部のアドバイザーとして活動する事を決定しました。また宮城県県庁に置かれている対策本部の補助・相談役として医師を1名派遣することも同時に決定しました。初動先遣隊は、医療拠点の設営を済ませると同時に直ちに被災者の方々の診療を周辺避難所（港親義会所、石泉活性化センター、個人宅（寄木地区）の巡回診療を含めて開始しました。



診療中の隊員

●第一期本隊派遣と活動

現地での活動を4月までの予定として、先遣隊派遣を含めた医療支援の活動資金をJapan Plat Formより受け、3月21日から本隊派遣が行われました。第一期では、本隊は一次隊から五次隊までとし、医師20名、看護師22名、調整員2名、薬剤師1名が参加しました。本隊の活動は、医療隊は「歌津つつじ苑」での診療と上記周辺避難所の巡回診療を行っています。

医療の主なものは、既に重症あるいは急性疾患の被災者は基幹病院などへ搬送された後でしたので、多くの被災者の方々がかかりつけの病医院を失い、その為に慢性疾患の投薬とその処方が主なもので

した。急性疾患としては身体的なものの多くは呼吸器症状（呼吸苦・咳・咳嗽など）によるものが多数を占め、インフルエンザなどの流行は認めていません。一方、ノロウイルス感染が志津川地区あるいはベイサイドアリーナで確認され、予防策として、食事用ディスポ製材の手配（割りばし、使い捨て食器「皿・どんぶり」）も現地対策本部とUNICEFから依頼され約70,000セットを購入あるいはご寄附いただき、現地に配布しています。

救急搬送は、痙攣発作、急性大動脈解離疑い、心不全、不安定狭心症、天疱瘡、急性胆のう炎がありましたが、全て基幹医療機関に受け入れをお願いできています。

第一期の本隊派遣の間に、この地域での被災者の方々の集団移住が近隣の栗原市などに行われ、時間の経過とともに医療の需要は徐々に少なくなり、最終的には41か所の避難所は4か所に縮められ巡回診療の必要性もなくなっています。ベイサイドアリーナ地域に公立志津川病院仮設診療所（イスラエル医療チームの寄付・後述）が開設され地元医師がこの診療所で4月18日より診療を始めることになり、殆どの医療支援隊も4月で撤収を決めていくなかでHuMAも支援医療の当初の目的は達成したとの判断により第一期でのこの地域での医療支援を4月末日で終了することが決定しました。

しかし、公立志津川病院仮設診療所も未だ始まったばかりで十分な医師数が確保できていないなどの理由から公立志津川病院長から正式な支援延長の依頼を受け、5月以降はこの仮設診療所の補助として医師を第二期医療支援として派遣する事を決定しました。

医療統括本部でのアドバイザーの役割としては、ベイサイドアリーナのレイアウト整備、薬剤の整理と調整、毎日の医療隊のmeetingと週一回のmedial cluster meetingの提言を行い、更には医療統括本部の相談役の役目を果たしています。

●社団法人日本山岳ガイド協会

本隊の活動では、今回のHuMAの医療活動にご賛同を頂いた社団法人日本山岳ガイド協会からの全面的なサポートを頂き、活動初日から本隊隊員の移動、食事あるいは保護などの活動面での共同

活動が行われました。発災直後から暫くは破壊された陸路やガソリン不足の為の移動の問題やあるいは食糧などの問題が懸念されていましたが、山岳ガイド協会から常時4人のガイドの方々がこれらの全ての面に対応をして下さった為に、災害現地でのロジスティックの問題に悩まされることはありませんでした。また実際の活動面だけでなく、この震災についての寄付金もHuMAの活動にと資金面での援助も頂いています。

●医療法人財団白十字会グループ

長期に渡る第一期の医療支援活動ではHuMAだけの人材では十分でない事もあり、医療法人財団白十字会グループの医師・看護師の方々がHuMAと一緒に現地で活動して下さっています。

●イスラエル医療チーム

イスラエル医療チームが医療援助として南三陸町に入る事が公式に決定し、HuMAが現地対策本部との調整・リエゾン役としてイスラエル大使館・日本外務省より委託されました。イスラエルチームは3月27日に志津川ベイサイドアリーナに入り、プレハブの仮設診療施設で診療を4月11日まで行いました。全員が軍属の医療職で、内科、外科、整形外科、産婦人科、小児科、耳鼻科、眼科、放射線科などロジスティック要員を含め総勢56名の陣容です。医療機器も未だ電気の来っていない地域に自家発電装置を設置し、単純レントゲン装置、超音波装置、各種血液検査機器、分娩用セットなどを用意していましたので、各被災地で既に医療を展開している日本の医療隊の要請に応じで診療



イスラエルチームとの会議

を引き受ける体制としました。婦人科チームは周辺の避難所の妊婦健診を巡回診療として行いました。イスラエルチーム撤収に当たっては、プレハブの建物を含む全ての医療機器を現地に寄付されたため、この施設は4月18日以降、公立志津川病院仮設診療所として活用されることになりました。

●月山プロジェクト

日本山岳ガイド協会の仲介で、長期に渡り被災者でありながら医療活動が続けてこられた現地医療看護職などの方々に少しでも休息していただく為に山形県西川町役場のご協力により、月山の温泉宿で二泊三日の休息ツアーを4月11日より開始しています。HuMAはこのツアーを積極的にお手伝いし、資金的援助を行うというものです。

●赤ちゃん一時避難プロジェクト

被災地の厳しい環境におかれている、乳幼児を中心とした小児とそのお母さんやご家族を民間の宿泊施設に受け入れ、母子ともに安全な環境の元に十分な休養と栄養をとり、必要があれば医療サポートを受けていただけるよう、UNICEFから資金提供を受け、他のNPO法人と自治体（NPO法人 全国商店街まちづくり実行委員会、NPO法人 日本ファーストエイドソサエティ、アトム通貨実行委員会仙台支部・GANNBARO ↑ MIYAGI／宮城復興支援センター）と連携して進めているプロジェクトです。当初は4月一杯の予定でしたが多くのお問い合わせがあり被災地の復興まで時間がかかる様子があるため7月までのこのプロジェクトの延長が決まりました。

●今後について

今回の災害は規模も範囲も巨大であり、災害救援の初期の医療支援活動は徐々に収束し、今後は復興にむけた支援が現地では必要とされてきています。このような大きな災害に対応すべくHuMAは総力体制でその医療支援を行ってきておりますが上述してきましたように、HuMAの活動は様々な方々のご協力とご支援によって可能となっています。今後も現地で必要とされる医療需要に対応すべく現行の支援と同時に準備を進めています。現地では更なるきめ細かい支援が必要とされています。

子どもたちの命を守る手洗いを、
世界に広めたい。



SARAYA

100万人の手洗いプロジェクト

日本で初めて薬用石けん液を開発したサラヤは、
今、世界の衛生環境を守るSARAYAへ。
衛生商品の売り上げの一部で、アフリカ・ウガンダでの
ユニセフ手洗い普及活動を支援する
「SARAYA 100万人の手洗いプロジェクト」を
スタートしました。

100万人の手洗い

検索

tearai.jp



We Support

SARAYA **unicef** 

サラヤはユニセフを支援します

Oral Health for Healthy Life

次世代を担う子どもたちの 笑顔のために



STANDARD
HEALTH
PROMOTION

健やかな生活は
お口の健康〈健口〉から

予防歯科の普及を通して
健康づくりに貢献します

SHPは予防を柱とした歯科医療のあり方
を見直し、生活者の健康増進のために
地域において活動を行う
歯科医院のグループです。

有限会社SHP

〒770-0051 徳島市北島田町1丁目56-5-301
tel.088-632-2425 fax.088-632-2439
URL <http://www.shp.bz/>



「創造」すること、それが私たちのDNA



私たちは、お客様のニーズに合せたソリューションを提供いたします。

組み込み開発 ハードウェア開発 画像／音声処理

お客様のニーズに応じて、電気系のシステム設計から基板試作、実装・組立、試験・評価までの
開発、機構系では成形金型によるケース開発のサポートをいたします

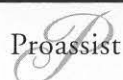
2次元/3次元超音波センサ・位置計測システム 脳波センサ FPGA回路設計 ASIC開発 ソフトウェア開発

WEB開発・生産管理

低コストで短時間に導入でき、効果が直ぐに検証できるWEBベースの業務支援アプリケーションを
提案し、お客様の日常業務の効率化に貢献します。

技術・ノウハウ・コツ伝承システム GPSを利用した位置探索ASPサービス 特定保健指導支援システム
eラーニングサービス WEB会議 ホームページ構築 ショッピングサイト構築 生産管理システム

組み込み開発・ハードウェア開発・画像／音声処理・WEB開発・生産管理



株式会社プロアシスト

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2-3-9 星和高麗橋ビル1F
TEL 06-6231-7230 FAX 06-6231-7261
URL : <http://www.proassist.co.jp>